

ワールドカップ来訪者の概要

—来日した外国人観戦者数と実態—

オリンピックと並ぶ世界最大のスポーツイベントであるFIFAワールドカップ・サッカー大会が02年6月に日韓共催で開催された。前回のフランス大会に続く日本チームの出場で、日本国内での関心も極めて高いものがあった。

一過性のイベントではあるが、かつてない短期集中的かつ全世界からの来訪、国内に分散した10カ所の会場への移動、開催地やキャンプ地からの情報発信、国際交流、ボランティアなど、観光振興・地域振興面からも注目すべきイベントであった。

本調査はワールドカップ観戦のために来訪した外国人の実態を調査したものである。

林俊介

目次

非公開

本編『ワールドカップ観戦に来日した外国人の実態調査』

第1章 ワールドカップの概要

第2章 ワールドカップ観戦に来日した外国人数

1. 観戦に来日した外国人数の把握
2. 2002年5月と6月の国籍別訪日外国人数
3. 各国大使館が推定した来日観戦者数
4. 観戦に来日した外国人数の概数の推計

第3章 ワールドカップ観戦に来日した外国人の実態調査

1. 調査概要
2. 標本構成
3. 国籍
4. 日本への訪問回数
5. 同行者
6. 同行者数
7. 旅行形態
8. 日本までの交通手段
9. 日本への入り込み個所
10. 滞在日数
11. 日本での宿泊地
12. 日本での立ち寄り観光地
13. 日本滞在中の総予算
14. 日本の全体的な印象
15. 来日前の行動
16. まとめ

1. ワールドカップ大会の概要

日本と韓国の共同開催で行なわれたワールドカップ・サッカー大会の概要は以下の通りである。

正式名称：2002FIFA ワールドカップ

主催：国際サッカー連盟 (FIFA)

日本での主管：日本サッカー連盟 (JFA)

開催期間：02年5月31日～6月30日(ただし、5月31日はソウルで開会式と第1戦が開催され、日本での試合の初戦は6月1日であった)

日本での開催地：札幌市、宮城県、茨城県、埼玉県、横浜市、新潟県、静岡県、大阪市、神戸市、大分県の10カ所

日本での試合数：32試合

日本での32試合の合計入場者数：1,438,637人

日本での主要戦：6月30日の横浜での決勝戦

日本で試合をした国：19カ国(日本を除く)

2. ワールドカップ観戦に来日した外国人数

(1) 観戦に来日した外国人数の把握

ワールドカップ観戦を目的に来日した外国人及び来日した大会関係者(大会役員、選手団・報道関係者)数の公式の統計は無い。国土交通省は02年4月末に、大会観戦を目的とした訪日外国人数を約337,000人、大会関係者を約60,000人とした予測数値を発表しているが、同省による大会後の検証はなされていない。また、海外で発売された入場券数も国際サッカー連盟(FIFA)から発表されていない。

そこで、

- ・ 02年5月と6月の国籍別訪日外国人数
- ・ 各国大使館が発表した観戦者数

の2つの側面から、ワールドカップ関係で来日した外国人の概数を推計した。

(2) 2002年5月と6月の国籍別訪日外国人数

通常は日本を訪問する外国人の7割はアジアからの訪問者で占められる。だが、サッカーファンが多い国は主にヨーロッパと中南米であり、日本で試合をしたのもヨーロッパが10カ国(アイルランド、イタリア、イングランド、クロアチア、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、トルコ、ベルギー、ロシア)、中南米が4カ国(アルゼンチン、エクアドル、ブラジル、メキシコ)、アフリカが4カ国(カメルーン、セネガル、

チュニジア、ナイジェリア)、中東が1カ国(サウジアラビア)とヨーロッパと中南米、そしてアフリカの国が中心であった。

ワールドカップが開催された02年6月の訪日外国人数を国籍別に01年6月と比較すると、アイルランドが前年同月比2,548人増(伸び率は363.5%増)、メキシコが前年同月比7,834人増(伸び率は649.0%増)のように、普段は来日者が少ない国を中心に、ヨーロッパで58.6%増、中南米で306.7%増、アフリカで98.5%増と大きく来日者が伸びており、この増加分はワールドカップ関係者と推定される。

また、日本でのワールドカップの初戦は6月1日の札幌(ドイツ対サウジアラビア)と新潟(アイルランド対カメルーン)で、いずれも成田空港や関西空港などの国際空港から遠いこともあり、5月中に来日した観戦者も多くいたものと推定される。たとえば、6月1日に新潟で試合をした、サポーターが熱狂的で有名なアイルランドについては、02年5月の来日数は前年同月比4,510人増(伸び率は579.2%増)という数字を示しており、多分4,000人以上のサポーターが5月中に来日した様子がうかがえる。さらに、大会関係者(大会役員、選手団、報道関係者)などの多くは5月中に来日していると思われる。

そこでヨーロッパ・中南米・アフリカの国籍の訪日者数の02年5・6月と01年5・6月との差は表1のようになり、合計数は56,686人となる。日本で試合をした主要国について、同様に02年5・6月と01年5・6月との差の合計を示したのが表2の左の列になる。

(3) 各国大使館が推定した来日観戦者数

大会中に新聞社が、日本で試合をする国の日本大使館に来日予定の観戦者数を問い合わせ、各大使館が推定する人数として回答した数値をまとめたの

表1 02年5月・6月の地域別の入国者の差

単位：人

	5月の差	6月の差
ヨーロッパ	11,802	27,556
中南米	2,501	12,776
アフリカ	763	1,288
計	15,066	41,620
総合計		56,686

(注) 02年の訪日者の数字から01年の訪日者の数字を引いた数。国際観光振興会(JNTO)資料にもとづく

が表2の右の列である。大使館の推定数そのものの妥当性の問題もあるが、入国者数の5月・6月の差の合計数と比較すると、ほとんどがそれほど大きくは異なっていない。

イギリスが倍ほどの開きがあるが、この大会の時はイングランド代表が参加しており、大使館推計はイングランドからの来日者数なので、イギリス全土からの来日者になると当然大きくなる。また、ドイツも2,000名程度の開きがあるが、ドイツは決勝戦まで残ったので、6月末になって来日する観戦者が増加したため、大使館推計より増加したのではと推定される。

したがって、入国者数の5月・6月の差の合計数から導き出した数値もかなり実態に近いものと考えられる。

表2 02年5月・6月の国別の入国者数の差
及び大使館推計の来日観戦者数

単位：人

	5月・6月の差の合計	大使館推計値
ヨーロッパ計	39,358	-
アイルランド	7,000	7,000~8,000
イタリア	1,442	1,000~2,000
イギリス	16,096	8,500
スウェーデン	1,666	2,000~3,000
デンマーク	530	
ドイツ	3,258	1,200
トルコ	1,112	
ベルギー	1,181	1,200
ロシア	2,090	1,000
その他ヨーロッパ	4,983	-
中南米計	15,277	-
アルゼンチン	816	700
ブラジル	1,225	
メキシコ	9,381	8,000
その他中南米	3,855	-
アフリカ計	2,051	-
総合計	56,686	-

(注) ①「5月・6月の差の合計」は02年の訪日者の数字から01年の訪日者の数字を引いた数。国際観光振興会(JNTO)資料にもとづく

②「大使館発表の数値」は新聞社の問い合わせに大使館が回答した推定数。02年6月28日付け毎日新聞及び02年6月10日付け中日新聞による。両者の数字が異なる場合は6月28日付け毎日新聞による。空欄は新聞記事に掲載されていない国

(4) 観戦に来日した外国人数の概数の推計

入国者数の5月・6月の差の合計数は56,686人であるが、02年の訪日外国人数そのものが年間で前年比9.8%増と上昇傾向にあったので、増加分全部をワールドカップのためとは言えないことと、02年5月の1カ月全部の増加分までワールドカップによるものと言うには若干無理も感じられることなどを勘案すると、ワールドカップ観戦に来日した外国人数は約5万人程度と推定される。

3. ワールドカップ観戦に来日した外国人の実態調査

(1) 調査概要

- ① 目的：ワールドカップ開催期間中に東京都を訪れたワールドカップ観戦目的の外国人の実態を把握するため。
- ② 調査項目：日本滞在中の訪問地、滞在期間など
- ③ 調査箇所：都内の5カ所の観光案内所(浅草雷門前、有楽町、新宿、地下鉄浅草駅、地下鉄六本木駅)、及び都内の16軒の宿泊施設(シティホテル、ビジネスホテル、旅館、ユースホステル、簡易宿泊所)
- ④ 調査方法：案内所の係員もしくは宿泊施設のフロント係員が、アンケート用紙をお渡しして記入していただく。アンケート用紙は英語・フランス語・韓国語の3カ国語を用意し、調査対象者に選んでいただいた。
- ⑤ 調査期間：02年5月24日(金)～6月30日(日)
- ⑥ 標本数：655票

(2) 標本構成

- ① 性別：男性80.9%、女性15.6%、不明3.5%
- ② 年齢：表3参照

(3) 国籍

回答者の国籍別では表4のように、約6割がヨーロッパ、3割が北中南米と、サッカーが盛んな地域からの回答者が圧倒的になった。国別の1位はイギリスで回答者の約1/3を占めた。2位はアイルランド、3位はアメリカである。日本での試合の有無に関しては、表5のように日本での試合のある国からの来訪者が8割を占めた。

表3 年齢構成

年齢	構成
20歳未満	2.6%
20代	36.2%
30代	32.1%
40代	16.9%
50代	8.1%
60歳以上	3.4%
不明	0.8%

表4 国籍構成

国籍	人数(人)	構成(%)
ヨーロッパ	413	63.1
イギリス	233	35.6
アイルランド	94	14.4
スウェーデン	26	4.0
ドイツ	13	2.0
ベルギー	12	1.8
フランス	10	1.5
その他ヨーロッパ	25	3.8
北中南米	201	30.7
メキシコ	68	10.4
エクアドル	39	6.0
アルゼンチン	14	2.1
アメリカ	69	10.5
その他北中南米	11	1.7
アフリカ	6	0.9
アジア	18	2.7
オセアニア	14	2.1
中東	1	0.2
不明	2	0.3
合計	655	100.0

(注) イギリスにはイングランドもしくはスコットランドとの回答も含む

表5 日本で試合の有無による国籍構成

国籍	人数(人)	構成(%)
日本で試合がある国	520	79.4
ヨーロッパ	392	59.8
北中南米	123	18.8
アフリカ	5	0.8
日本で試合が無い国	133	20.3
ヨーロッパ	21	3.2
北中南米	78	11.9
アフリカ	1	0.2
アジア	18	2.7
オセアニア	14	2.1
中東	1	0.2
不明	2	0.3
合計	655	100.0

(4)日本への訪問回数

日本への訪問回数の質問には、日本へ来るのは初めてという回答が86.3%を占めた。国際観光振興会(JNTO)の例年の調査では、日本に来る外国人の内、初めての比率が毎年1/3程度なので、ワールドカップ観戦のために極東の日本に、ヨーロッパや中南米からいかにたくさんの方がわざわざ日本まで来たかということがわかる。

(5)同行者

同行者に関する質問では表6のように半数が友人と回答しているが、1/4は一人旅である。

(6)同行者数

自分を含めての同行者数は表7のように二人旅が4割弱で一番多い回答となった。

(7)旅行形態

日本への来訪は旅行会社の募集旅行かどうかという質問には、表8のように約2割が募集旅行だと答えている。

(8)日本までの交通手段

日本への交通手段は表9のように圧倒的に飛行機であった。

(9)日本への入り込み個所

日本への入り込み個所の質問では、東京都内での調査だったこともあるだろうが、表10のように約9割が成田空港であった。

(10)滞在日数

日本での滞在予定日数の平均は17.7日(回答者数

表6 同行者(複数回答)

同行者	人数(人)	構成(%)
一人(同行者はいない)	153	23.4
友人と	324	49.5
夫婦で	81	12.4
子供連れ家族で	31	4.7
その他家族で	58	8.9
職場の仲間と	6	0.9
地域の団体	10	1.5
その他	9	1.4
不明	1	0.2

表7 同行者数

同行者（自分を含めて）	人数（人）	構成（％）
1人（同行者はいない）	143	21.8
2人	248	37.9
3人	89	13.6
4人	64	9.8
5人	20	3.1
6人	11	1.7
7人	4	0.6
8人	17	2.6
9人	6	0.9
10人以上	35	5.3
不明	18	2.7
合計	655	100.0

表8 旅行会社の募集旅行かどうか

	人数（人）	構成（％）
募集旅行である	140	21.4
募集旅行でない	508	77.6
不明	7	1.1
合計	655	100.0

は511名）。回答者数の多い上位3つは14日が85名（回答者数の16.6％）、15日が50名（同9.8％）、16日が35名（同6.8％）だが、30日以上という回答も72名（同14.1％）いる。また、7日以内の滞在は52名（同10.2％）で、1週間以内の滞在は1割しかないことになる。

国際観光振興会（JNTO）の00年の調査では訪日外国人旅行者の平均滞在日数は8.0日なので、ワールドカップ観戦者はその2.2倍の期間、日本に滞在していることになる。

（11）日本での宿泊地

日本での滞在地を尋ねた質問（複数回答）の回答上位10カ所が表11である。ワールドカップ開催10カ所のうち7カ所が含まれている。埼玉・茨城・静岡は東京から日帰り圏と考えられたのか、宿泊地の上位には入らなかった。

日本の代表的な観光地である京都は約1/4が宿泊すると答えている。関西以西のワールドカップ会場への移動の際に、歴史的都市として海外で有名な京都を宿泊地として選択した人が多いのではと推定される。また、原爆被災地として有名な広島も上位に入った。

表9 交通手段

交通手段	人数（人）	構成（％）
飛行機	642	98.0
船	13	0.2
日本に住んでいる	0	0.0
その他	0	0.0
合計	655	100.0

表10 日本への入り込み個所

入り込み個所	人数（人）	構成（％）
成田空港	578	88.2
羽田空港	5	0.8
関西空港	30	4.6
伊丹空港	2	0.3
福岡空港	1	0.2
新千歳空港	0	0.0
その他の空港	5	0.8
博多港	5	0.8
下関港	3	0.5
その他の海港	4	0.6
不明	22	3.4
合計	655	100.0

（12）日本での立ち寄り観光地

日本での滞在中に立ち寄った、もしくは立ち寄る予定の観光地（複数回答）の回答上位25カ所が表12である。静岡を除くワールドカップ開催地の他に、東京をはじめとして、京都、富士山、広島、日光、鎌倉、奈良、箱根という日本の代表的かつ欧米人がイメージする日本の典型的な観光地が並んだ。富士山という回答は1割あり、やはり日本の代表的なイメージであることがわかる。

また、東京の具体的な地名として、浅草、皇居、新宿、六本木、銀座、上野も挙げられており、こちらも典型的な東京の観光スポットや繁華街が上位に入った。

（13）日本滞在中の総予算

日本国内で一人あたり使う予定の金額の平均は246,295円となった。平均滞在日数17.7日で割ると、1日あたりは13,915円となる。国際観光振興会（JNTO）の00年の調査では訪日外国人旅行者の日本旅行中支出額の平均は約147,000円（1日あたり約18,300円）なので、1日あたりの支出額については、ワールドカップ観戦目的の来訪者は平均的日本人旅行者の3/4であるが、滞在日数の項目で見たようにワールドカップ観戦来訪者の日本滞在日数は平

表11 宿泊地(複数回答)

順位	地名	人数(人)	構成(%)
1	東京	460	70.2
2	大阪(*)	162	24.7
3	札幌(*)	158	24.1
4	京都	156	23.8
5	新潟(*)	75	11.5
6	仙台(*)	53	8.1
7	神戸(*)	48	7.3
8	横浜(*)	46	7.0
8	広島	46	7.0
10	大分(*)	24	3.7

(注) (*)の付いた地名はワールドカップ開催地。
なお東京には都内の地名の回答も含み、
仙台には宮城という回答も含む

表12 立ち寄り(予定)観光地(複数回答)

順位	地名	人数(人)	構成(%)
1	東京	150	22.9
2	京都	140	21.4
3	大阪(*)	109	16.6
4	札幌(*)	91	13.9
5	新潟(*)	90	13.7
6	横浜(*)	80	12.2
7	富士山	69	10.5
8	広島	62	9.5
9	浅草	55	8.4
10	皇居	44	6.7
11	日光	42	6.4
12	仙台(*)	36	5.5
12	大分(*)	36	5.5
14	鎌倉	35	5.3
14	神戸(*)	35	5.3
16	茨城(*)	34	5.2
17	宮城(*)	30	4.6
18	奈良	29	4.4
19	埼玉(*)	24	3.7
19	新宿	24	3.7
19	箱根	24	3.7
19	六本木	24	3.7
23	銀座	22	3.4
23	寺院	22	3.4
23	上野	22	3.4

(注) (*)の付いた地名はワールドカップ開催地

均的外国人旅行者2.2倍もあり、一般的には儉約旅行の印象が強い。しかし、ワールドカップ観戦者は滞在日数が長いだけに、総額で見ると平均的外国人旅行者の1.7倍のお金を日本で支出していることになる。

ただし表13のように、年齢別に見ると20歳未満や20代は平均よりも低くなっている。

また、10万円ごとに区切ってみると、100,000万

表13 日本滞在中の総予算

年齢	金額(円)
20歳未満	185,222
20代	219,733
30代	267,215
40代	277,868
50代	237,111
60歳以上	356,571
全体の平均	246,295

円以下の予算の人が36.2%と最も多く、2番目が100,001円から200,000万円の21.3%となり、20万円以下で半数を超える。平均滞在日数が17.7日であることを考えると、かなりの儉約旅行である様子がうかがえる。ちなみに50万円以上の回答者は9.1%であった。

(14)日本の全体的な印象

日本の全体的な印象を5段階評価で尋ねたら、最上位の「極めて良い」が66.4%、「良い」が30.9%、「どちらともいえない」が2.7%で、「悪い」「極めて悪い」の回答はゼロで、きわめて好意的な回答が圧倒的であった。

(15)来日前の行動

観戦チケットに関しては来日前に入手したという回答が93.0%であったが、入手していないという回答も7.0%あった。

東京の宿泊の予約を来日前にした人は88.5%で、予約せずに来日した人は11.5%であった。約1割の旅行者は事前の予約無しに東京を訪れていることになる。

また、予約した人に予約方法を尋ねたら、56.8%が宿泊施設に直接申し込んだと回答した。

(16)まとめ

以上の結果から浮かんでくる平均的な姿は、ヨーロッパや中南米から20代・30代を中心に、友人や家族と一緒に、ワールドカップを観戦するために生まれて初めて日本にやって来た。予算は246,000円で17.7日間滞在し、試合の合間に観光もするが、行くところは典型的な日本の観光地ばかり。しかし、全体的には日本には大いに満足した、といったところである。